

1 単元名 「よりよい人間関係をつくろう」

○学習指導要領 特別活動〔学級活動〕第4学年の内容とのかかわり

内容(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」における、「イ よりよい人間関係の形成」の「学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること」ができるよう、本単元を通じて学級だけでなく学年や学校全体のよりよい人間関係を形成することができる。

【教科横断的な学習による各教科の内容とのかかわりについて】

○学習指導要領 国語 第4学年の内容とのかかわり

内容「〔思考力・判断力・表現力等〕A 話すこと・聞くこと」(1)のウ「話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること」については、本単元で行う集団での話し合い活動において、自分の考えを伝える人数や話す場面、効果的に伝えるための表現方法等意識して話す機会を多く設定することで、育成することができる。

○学習指導要領 道徳 第4学年の内容とのかかわり

内容(10)「〔相互理解・寛容〕自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」については、本単元で実施する体験活動において「相手の考えや意見、行動等を肯定的に捉える姿勢でのぞむこと」を基本的なルールとして掲げ、実施することで、「相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢」が養われ、他者を尊重する心情を育むことができる。

内容(15)「〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること」については、本単元の目標が「児童がよりよい人間関係を形成し、その関係を生かすことでよりよい学校生活を送ることができる学級・学年集団を形成すること」であることから、本単元で実施する体験活動を通じて、学校への愛着や集団への所属感を高め、充実した集団生活を構築しようと努力する心情を育むことができる。

2 単元の目標・評価規準

- ・人間関係づくりプログラムを中心とする様々な体験活動（アクティビティ）を通じて、児童が互いに協力しながら問題解決を図り、「よりよい人間関係」を形成することができる。
- ・形成した人間関係を生かし、よりよい学校生活を送ることができる学級・学年集団を形成することができる。

育成する資質・能力	目標	評価規準
知識及び技能	よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解できる。	よりよい人間関係を形成するために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 他者の考えや意見を肯定的に捉えることで、他者を尊重し、よりよい人間関係を形成する方法を身に付けている。
思考力・判断力 ・表現力等	よりよい人間関係を形成するために、集団内で意見交換を行うことで合意形成を図り、協力して行動することができる。	よりよい人間関係を形成するために、体験活動における問題に対し、集団内で意見交換を行うことで合意形成を図り、協力して解決しようとしている。
学びに向かう力 ・人間性等	他者の考えや意見を肯定的に捉え、尊重することで、よりよい人間関係を形成できる。	体験活動を通じて、問題解決に至る考えや意見について客観的に捉え、他者を尊重することで、よりよい人間関係を形成しようとしている。

3 単元構想

(1) 集団活動として学習することのよさ

現在、インターネットやSNSなどの情報伝達技術の発達により、人と人との直接的なふれあいが減少し、学校現場でも人間関係の希薄化を起因とする不登校問題が教育課題の一つとして挙げられている。加須げんきプラザでは、不登校問題を改善するためには、よりよい人間関係を形成することが何より重要ととらえ、令和元年度に「人間関係づくりプログラム」を開発し、様々な教育機関や当プラザの利用団体に対して体験活動を提供してきた。

本単元でも実施する「人間関係づくりプログラム」とは、様々な活動（アクティビティ）を通して、児童が互いに協力しながら問題解決を図り、「よりよい人間関係」を形成することをねらいとする。この活動を契機として、児童の間に良好な人間関係を築き、それを基盤としたよりよい学級・学年集団を形成することにつなげていく。

(2) 単元計画（学習過程と活動内容等）

学習過程	活動内容	時数	活動の場
【事前学習】			
1 活動のねらいを理解する	1 人間関係づくりプログラムのねらいとそれを達成するためのルールについて理解する。		小学校 または 加須げんき プラザ
2 基本的な活動の実践	2 人間関係づくりプログラムの基本的な活動（アクティビティ）について実践を行う。 実践を通じて、人間関係づくりプログラムに慣れ親しみ、より高度な活動（アクティビティ）		

	を実践する体制を築く。		
【体験学習】			
3 本日の活動のねらいを明確にする	3 「ビーイング」を行い、各自の活動のねらいを明確にする。	1	小学校 または 加須げんき プラザ
4 体験活動①	4 複数のグループに別れ、グループごとにアクティビティを体験する。	3	
5 体験活動②	5 学年全体で集団的なアクティビティを体験する。	2	
6 活動の振り返り	6 「ビーイング」を行い、活動のはじめに設定したねらいについて、その達成度を確認する。		
【事後学習】			
7 学習した内容の共有化	7 体験学習で学んだ内容について、縦割り活動の時間等で主体的な役割のもと実施し、活動の成果を学校全体にも広める。		小学校

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点

1) 主体的な学び

① 目指す子供の姿

- ・人間関係づくりプログラムのねらいを理解し、アクティビティを実施する際には、他者と協力して問題を解決することで、よりよい人間関係を進んで構築することができる。

② 指導のポイント

- ・アクティビティの実施において、児童が主体的に問題を解決するための時間を十分に与え、集団として問題を解決できるよう促す。

2) 対話的な学び

① 目指す子供の姿

- ・アクティビティ実施において、集団内で積極的に意見交換を行い、合意形成により、問題を解決しようとしている。
- ・アクティビティ実施後の振り返りにおいては、他者の発言や行動を肯定的に捉え、長所として尊重することができる。

② 指導のポイント

- ・アクティビティ実施において、児童の活動を見守るとともに、安全面を考慮し、必要に応じて声掛けを実施する。

3) 深い学び

① 目指す子供の姿

- ・アクティビティ実施後の振り返りにおいて、問題解決に至った自他の発言や行動に気づ

き、肯定的に捉えることで、他者を尊重し、自己の長所に気づくことができる。

②指導のポイント

- ・アクティビティ実施後の振り返りにおいて、問題解決に導いた児童の考えや行動に、児童自らが気づくよう配慮し、指導する。

4 展開【特別活動（時数 6 時間）】

（1）ねらい

人間関係づくりプログラムを体験する活動については、児童の協働による問題解決を促す場面を多く設定し、それらに伴う「主体的・対話的な学び」を通じて、学級や学年等の集団における、よりよい人間関係を築く能力を養う。さらに、それらの学びから、他者の尊重、および自己理解といった「深い学び」へと導き、よりよい学年・学級づくりにつなげていく。

（2）展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
1 学習の内容確認	<ul style="list-style-type: none"> ・本日举行う体験学習の内容と方法について確認する。 ・活動（アクティビティ）のルールについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習で体験した活動を想起させ、安全になおかつ適正に活動が行えるようルールを確認する。 	30分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>よりよい人間関係をつくるためには、どのようなことに気を付けるべきかを、考えることができる。</p> </div>			
2 各自の目標決め	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーイングを通じて、本日の活動における各自の目標について設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のねらいに沿った形で、各自の目標を設定するよう伝える。 	
3 体験活動①（グループ活動）	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を5グループに分け、設定された5つの会場で、異なるアクティビティを順次実施する。 ・35分（体験25分、移動・休憩10分）ごとに、次の会場に移動をすることを3回行い、児童がそれぞれ3つのアクティビティを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各会場で行うアクティビティでは、限られた時間内で振り返りまで実施できるよう時間配分に留意する。 ・活動中に起こる問題について、児童が主体的に解決できるよう、支援や助言を最小限にする。 ・活動中の事故やトラブルを防ぐため、必要に 	105分 (35分×3回)

<p>4 体験活動②（全体活動）</p>	<p>グループ活動アクティビティ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実施予定のアクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パイプライン」「マシュマロリバー」「バルーントロリー」 「迷走 UFO 新聞紙編」の4つから、3つを体験できるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体でアクティビティを実施する。（全体活動アクティビティ） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>実施予定のアクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループフルーツバスケット」「仲間探し」の2つを実施 </div>	<p>応じて、活動を中止できるように、児童の活動を注意深く観察する。</p>	<p>35分</p>
<p>5 活動の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の振り返りを行う。 ・各グループ内で感想の発表を行い、活動の成果について共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを記入する時間を十分に取り、今回の学習を通して学んだことを、明確にさせる。 	<p>30分</p>

（3）評価規準

- ・より良い人間関係をつくるためには、他者の考えや意見を肯定的に捉え、協働して取り組むことが重要であることを理解している。（知識及び技能）
- ・様々な体験学習における問題を解決するために、他者の考えや意見を尊重しながら話し合い、協力し合って実践することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・各活動（アクティビティ）実施後の振り返りにおいて、問題解決に至る考えや意見について客観的に捉え、意欲的に認め合うことで、よりよい人間関係を形成しようとしている。（学びに向かう力・人間性等）